

# 国際業務の 窓辺から

CLAIR 経験者からの  
メッセージ



## 自信をつかんだ海外勤務

福岡県企画・地域振興部国際局地域課 主任主事 中川 洸平

私がクレアに派遣されたのは、入庁から3年が経った頃でした。当時まだ20代だった私にとって、国際業務のノウハウはもちろん、仕事全般に通ずる土台のようなものが、このクレア時代に培われたと感じています。特に北京勤務時代は、慣れない環境と、日々直面するトラブルやカルチャーショックに翻弄されながらも、多くの知見と経験値を持って派遣元に帰ってくる事ができたと思っています。

### 鍛えられる「現場対応力」

海外で生活や仕事をしていると、日本では考えられないようなトラブルが度々発生します。私自身、中国でそのような「試練」を何度も経験しました。そういった環境下においては、トラブルに直面した時にいかに機転を利かせて問題解決あるいは被害を最小化できるかといった「現場対応力」が常に問われます。そして、その能力を磨くためには、日頃からマニュアルや前例頼みの働き方ではなく、自らの頭で考え、判断し、行動することこそが大事なのだと気づかされました。帰任後も、この「現場対応力」の重要性は日々感じています。

### まずは自己主張から

中国人の方と仕事をしていると、日本人の「主張の弱さ」がとても気になります。日本では、謙虚で控え目であることを良しとする風潮がありますが、国際社会においては、自己主張のない人は「意思のない人」とネガティブに判断されるのが普通でしょう。とりわけ主張のはっきりしている中国人にとっては、会議などの場で何も言わずにニコニコしているだけの日本人には不気味さすら感じるそうです（笑）。こちらの主張をしっかりと示さなければ、常に相手に主導権を握られたまま事が進み、得てしてこちらの意図しない結果に辿り着くことは、私も身をもって経験済みです。そうならないために、

主張すべきことは忌憚なく主張し、もし互いの主張が相反した場合には、両者にとって最適な妥結点を探る、これは仕事において極めて重要なスキルだと思います。

### 出会いと学びの宝庫

中国では、中央省庁や他自治体の職員、企業の駐在員や実業家、そして現地の中国人の皆さん等、これまで交わることのなかった人々との業界や国籍を越えた数多くの出会いがありました。こうした皆さんとの交流を通して、多様な価値観に触れ、考えを深め、自分の世界を広げることができたと思います。特に、当時の北京事務所長（総務省）からは、仕事について数多くのご示唆をいただきました。こうした人々との交流を通して自分自身を磨けるという点も、海外勤務の醍醐味ではないでしょうか。

### 自信を持って県庁へ

2年間の海外勤務を終え、私は県庁に帰任しました。帰任後は、中国との国際交流業務を担当しており、北京での経験がダイレクトに活かされています。海外での生活は多くの苦勞を伴い、仕事も一筋縄ではいかないハードなものばかりでした。だからこそ、「そのハードルを乗り越えたんだ」という自信は、今の自分を支える大きな力となっています。これから、多くの自治体職員の皆さんに私と同じような経験の機会が与えられることを願っています。



当時の北京事務所メンバーと

### プロフィール・ほか

2011年4月 福岡県入庁（商工部国際経済観光課配属）  
2014年4月～2015年3月 クレア東京本部企画調査課 主事  
2015年4月～2017年3月 クレア北京事務所 所長補佐  
2017年4月～ 現職